

自然環境保全活用調査
その3

報告書

平成17年3月

富田林市
富田林の自然を守る市民運動協議会
特定非営利活動法人 里山倶楽部

目 次

1．奥の谷モデル地区における将来プランの検討	2
(1) 周辺地区の保全活用方針	2
① 現地調査	
② 保全活用方針	
(2) 南原地区のモニタリング	13
① 現地調査	
② 自然観察路のコース設定（案）	
2．「奥の谷花ごよみ」の作成	16
(1) 夏の花	17
(2) 秋の花	22

1. 奥の谷モデル地区における将来プランの検討・・・・・・・・・・

(1) 周辺地区の保全活用方針

① 現地調査

これまでに、奥の谷の活動地（平成14年）および隣接する南原地区（平成15年度）の調査を行なった。今年度はこれらの既調査地をとりまく周辺地区について、「富田林の自然を守る市民運動協議会」のメンバーと同行して9月に現地を踏査した。

（「周辺地区 現況および管理方針図」参照）

■ 奥の谷入口部の雑木林

コナラの高木林の中にヤマザクラが多くまざった雑木林で、かん木にはツツジが多く見られるが、ヒサカキ等の林床の常緑樹も大きく育ちつつある。 … 【1】



■ 放置されたミカン果樹園

かつてはミカン果樹園として管理されていたが、管理が行き届かずにクズ等におおわれつつあり、ミカンの木が枯損して消失している箇所も見られる。 … 【2】



■ 管理されている果樹園

現在もミカン果樹園として管理されているが、園地の周縁部には隣接地の竹やクズの侵入が見られる。 … 【3】



■谷筋のスギ・ヒノキ林

林床には比較的多くのかん木や草本が見られるが、林内は薄暗く、より強度の間伐が必要と考えられる。 …【4】



■奥の谷入口部の耕作地

小規模な畑や果樹栽培に利用されており、奥の谷に入っすぐの場所に開ける農地景観を印象づけている。 …【5】



■奥の谷入口部の水田

毎年、水田として維持されており、谷沿いの一部は畑地として利用されている。畦や道沿いの草刈り管理も行なわれて良好な景観を形成している。 …【6】



■「水の生きもの池」に隣接する休耕地

耕作は行なわれておらず低茎の草本地となっている。そのまま放置すると高茎草本やササが侵入しヤブ化していくと考えられる。 …【7】



■小規模な果樹園

ビワ、ウメなどの果樹が植栽された小規模な草原状の園地となっており、ショウブなども見られる。 …【8】



■ショウジョウバカマが群生するスギ・ヒノキ林

比較的明るい人工林で、林床にはショウジョウバカマの群生が見られる。谷筋の湿地的な環境を考慮しながらの間伐等の手入れが求められる。 …【9】



■密生した竹林

適切な管理が行なわれずに密生・ヤブ化した竹林となっている。隣接するスギ・ヒノキ林への侵入も見られるため、周辺部への拡大防止が求められる。 … 【10】



■手入れされた竹林

隣接の密生した竹林とは対照的に、適度な管理によって林床にも草本が見られる明るい竹林となっている。 … 【11】



■ミカン果樹園の跡地

尾根から下部の斜面一帯はかつてミカン果樹園だったと思われるが、現在は果樹が枯損してなくなり草原状になっている。 … 【12】



■尾根の雑木林

明るい尾根筋に広がるコナラ主体の雑木林でツツジ類も多く見られる。 … 【13】



■耕起している休耕地

水田や畑としての利用はされていないが、耕作地としてすぐに復活できるように、雑草防除のための耕起が毎年行なわれている。 … 【14】



■スギ・ヒノキ林

比較的、手入れされた人工林で、所有者からこのまま維持管理していく意向を聞いている。 … 【15】



■一段高い立地の水田

奥の谷の道からは見えないが、ため池のすぐ下の小高い立地を開けている水田。良好な農地景観を形成している。 … 【16】



■ため池の堤防斜面の草地

ため池の管理の一環として毎年行なわれている草刈り管理に、今年から協議会もいっしょに参加している。草地にはワレモコウやツリガネニンジンが見られる。 … 【17】



■無農薬栽培の畑地

所有者ができるだけ農薬を使わない方法で畑づくりを行っており、良好な農地景観が維持されている。 … 【18】



■初芝高校下部の斜面

初芝高校に接する尾根で、谷の奥につづく裾部は急な斜面となっている。 … 【19】



■まとまった面積の雑木林

奥の谷から嶽山へと続く雑木林で、西側斜面の一部について、今後の管理作業実施の了解を所有者から得ている。 … 【20】



■比較的手入れされたヒノキ林

まとまった面積のヒノキ人工林で、間伐等の手入れが比較的行なわれており、林内は明るく草本類も見られる。 … 【21】



■急傾斜地の雑木林

南原に向かって落ちこむ急傾斜地の雑木林で、ヤマモモ・アラカシ・ヒサカキ等が多く混じる暗い林となっている。 … 【22】



■急傾斜地の竹林

南原に向かって落ちこむ急傾斜地の竹林で、密生した暗い林内には常緑樹が見られる。一部は尾根を越えて奥の谷側の雑木林に侵入している。 … 【23】



②保全活用方針（周辺地区）

奥の谷および南原の谷戸（既調査地）をとりまく周辺地区については、以下のような保全活用方針のもと今後の管理作業を検討する。ただし、保全活用方針や管理作業の内容については、土地所有者との十分な調整を必要とする。

（「周辺地区 現況および管理方針図」参照）

A 明るい雑木林としての維持管理

…【1】【13】【20】

コナラ・クヌギ・ヤマザクラ等で構成される雑木林では、明るい林内環境となるよう下層の常緑樹の伐採や間伐等の維持管理を行なう。モチツツジ、ササユリ、ショウジョウバカマなどの花木・草花類が見られる箇所では、現況の環境にあわせて草刈りや湿地環境の維持を行なうなどそれぞれの保全育成を図る。

B 果樹園としての維持管理

…【3】【8】

現在もミカン果樹園として管理されている箇所では、引き続き果樹園としての維持管理をつづける。周縁部から竹やクズ類の侵入が見られる箇所では、早急に竹の伐採やクズの除去を行う必要がある。

C 果樹園から雑木林への転換

…【2】【12】

果樹園が放棄されてすでにミカン等が枯損している区域では、土地所有者の意向を確かめながら、草刈り管理とコナラやクヌギ等の植樹を行なって雑木林に転換することを検討する。土地所有者が果樹園を維持したい意向である場合は、Bの果樹園としての維持管理に取り組む。

D 良好な針葉樹人工林としての維持管理

…【4】【9】【15】【21】

スギ・ヒノキが植栽された人工林では、林内の状況を見ながら間伐や枝打ちなどの作業を行い、明るい林内環境となるよう維持管理する。

E 良好な竹林としての維持管理

…【10】【11】

手入れされずに密生・ヤブ化した竹林は、間伐やタケノコ取りを行って適切な密度とし、周辺への拡大防止を行なうとともに、林床にも草本が見られるような明るい竹林として維持管理を行なう。

F 水田・畑等の耕作地としての維持管理

…【5】【6】【16】【18】

現在も水田・畑として利用されている耕作地は、引き続き耕作を続けて、畦や道沿いの草刈り管理を行い、奥の谷の良好な農地景観を維持する。

G 良好な草地としての維持管理

…【7】【14】【17】

休耕地やため池堤防などは毎年の草刈り作業を継続して、現況状況にあわせて高茎草地または低茎草地として維持し、農地や畦畔に見られる植物（ワレモコウ、ツリガネニンジン等）を保全育成する。

H 急傾斜地の斜面林として現況保全

…【22】【23】

谷に落ち込む急傾斜地・崖地に立地する林分は、斜面地の崩壊を防止するために、現況のまま維持・保全する。ただし、隣接地に侵入が見られる竹林は拡大防止のために周縁部の伐採等を行なう。

③南原地区のモニタリング

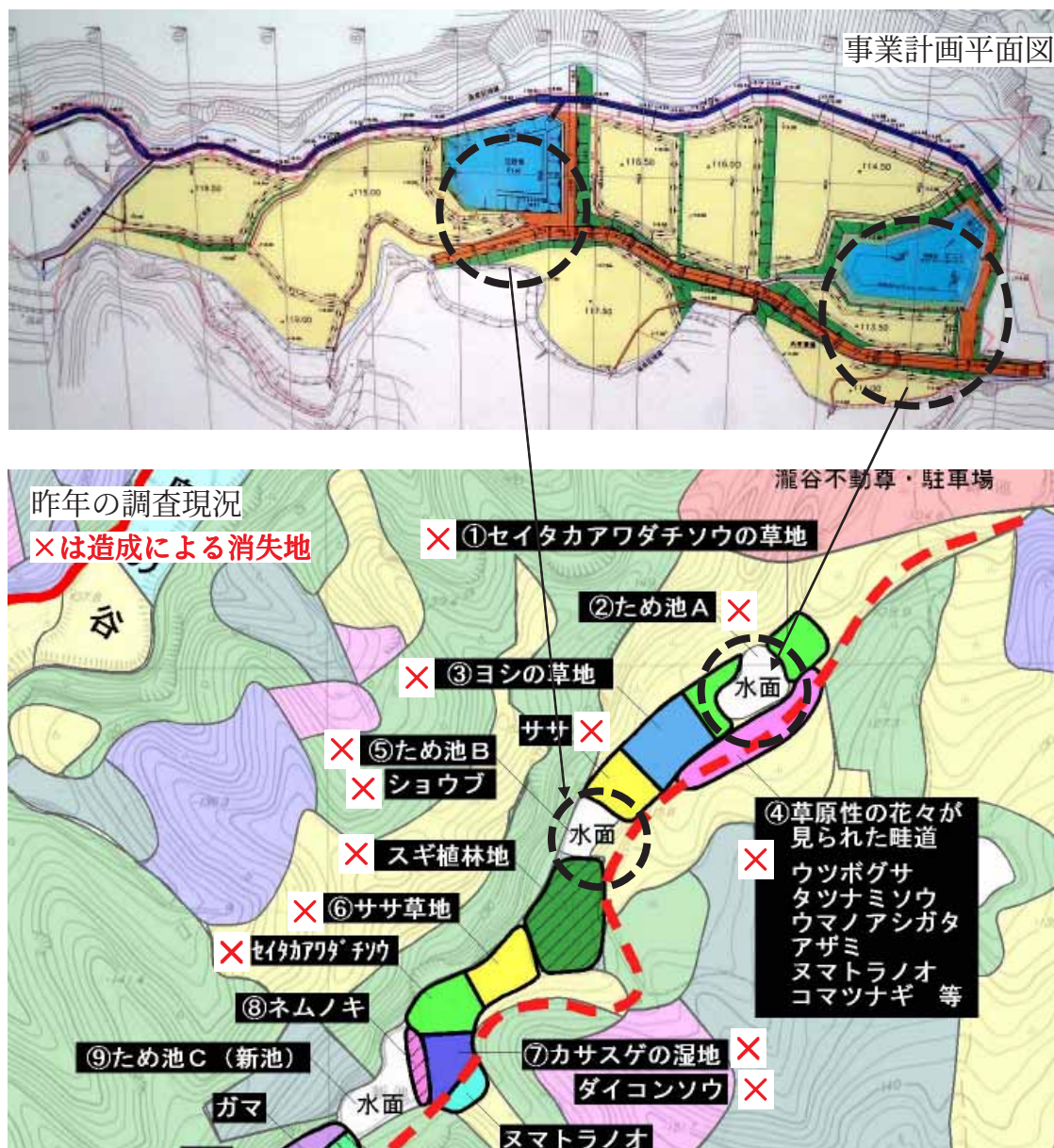
平成16年7月より行なわれた農地造成工事により、南原地区入口部の環境は大きく変化した。昨年度の調査においてウツボグサやタツナミソウ等が見られた畔道は消失し、ショウブ等が見られた2ヶ所のため池の周辺も埋め立てられて地形が改変されている。（※調査日 2005/2/22の段階ではまだ造成は完成していなかった。）

今後は造成地がどのように利用・管理されるか、またそれに伴って自然環境がどのように変化していくか継続的なモニタリングを行い、自然環境の再生を目指した利用のあり方や管理手法の提案を行なっていくことが必要と考えられる。

■造成事業の概要（現地標識より）

- 1) 事業の目的：農地造成
- 2) 事業者：滝谷不動明王寺
- 3) 施工期間：平成16年7月20日～平成17年1月20日
- 4) 事業区域の面積：9905.8 m²
- 5) 土砂等の搬入予定量：25000 m³

■造成工事の位置



■造成の状況



造成前(2004/6/8)



造成中 (2005/10/11)

【南原の入口の道】

草原性の花々が見られた
畦道は消失し、工事用道
路として拡幅された。



造成中(2005/2/22)



造成前(2004/7/15)



造成中 (2005/10/11)

【ため池A下流側】

池の水面は縮小されて、
コンクリート護岸が整備さ
れた。



造成中(2005/2/22)



造成前(2004/6/8)



造成中 (2005/10/11)

【スギ植林地】

スギを伐採した後の造成でショウブが見られた池は埋め立てられた。



造成中(2005/2/22)



造成前(2004/6/8)



造成中(2005/2/22)

【ネムノキの列植とカサスゲ湿地】

池の堤に列植されたネムノキは残っているが、その下のカサスゲ湿地は消失した。

【拡張された駐車場】

背後の丘を切って造成した土砂が、南原の谷地に搬入された。

造成中(2005/2/22)



2. 「奥の谷花ごよみ」の作成

モデル地区周辺で見られる夏から秋にかけての代表的な草花の写真や情報を、今後の里山保全活動や自然観察会、市民へのPR等に活用できるよう、「奥の谷花ごよみ」としてまとめた。草花のピックアップに際しては、「嶽山の植物」（富田林の自然を守る会「富田林の自然№6」1999年2月21日発行）を参考とした。

「奥の谷花ごよみ 夏・秋編」掲載種一覧

夏 -1	アオツツラフジ	秋 -1	アカザ
夏 -2	オギ	秋 -2	アカネ
夏 -3	セリ	秋 -3	アメリカセンダングサ
夏 -4	センニンソウ	秋 -4	コセンダングサ
夏 -5	ノギラン	秋 -5	アレチウリ
夏 -6	ヒレタゴボウ	秋 -6	イヌタデ
夏 -7	ヘクソカズラ	秋 -7	オオイヌタデ
夏 -8	アキノノゲシ	秋 -8	コニシキソウ
夏 -9	ムラサキツメクサ	秋 -9	オオニシキソウ
夏 -10	メマツヨイグサ	秋 -10	オオオナモミ
夏 -11	ヤナギハナガサ	秋 -11	カラムシ
夏 -12	アキノタムラソウ	秋 -12	キンエノコロ
夏 -13	アメリカイヌホウズキ	秋 -13	クズ
夏 -14	イタドリ	秋 -14	ゲンノショウコ
夏 -15	イヌガラシ	秋 -15	コオニタビラコ
夏 -16	オオアレチノギク	秋 -16	ススキ
夏 -17	オトギリソウ	秋 -17	スズメウリ
夏 -18	オニドコロ	秋 -18	セイタカアワダチソウ
夏 -19	オミナエシ	秋 -19	ベニバナボロギク
夏 -20	カナムグラ	秋 -20	チカラシバ
夏 -21	カラスウリ	秋 -21	チヂミザサ
夏 -22	ガンクビソウ	秋 -22	ツリガネニンジン
夏 -23	キツネノマゴ	秋 -23	ツルボ
夏 -24	キンミズヒキ	秋 -24	ツルリンドウ
夏 -25	コナギ	秋 -25	ノアズキ
夏 -26	タカサブロウ	秋 -26	ヒガンバナ
夏 -27	ツユクサ	秋 -27	ブタクサ
夏 -28	ヌスビトハギ	秋 -28	ホシアサガオ
夏 -29	ヒナタイノコヅチ	秋 -29	ヒメクグ
夏 -30	ヒヨドリバナ	秋 -30	コゴメカヤツリ
夏 -31	ヨモギ	秋 -31	ボントクタデ
夏 -32	ヒメムカシヨモギ	秋 -32	ママコノシリヌグイ
夏 -33	ヒルガオ	秋 -33	ミズヒキ
夏 -34	ノブドウ	秋 -34	メドハギ
夏 -35	フユイチゴ	秋 -35	ヤブマメ
夏 -36	ハウキギク	秋 -36	ヤマジノホトトギス
夏 -37	オヒシバ	秋 -37	ヒヨドリジョウゴ
夏 -38	メヒシバ	秋 -38	イナカギク
夏 -39	ヤハズソウ	秋 -39	イヌビエ
夏 -40	ヤブツルアズキ	秋 -40	センブリ
夏 -41	ヤブラン	秋 -41	ミゾソバ
夏 -42	ジャノヒゲ	秋 -42	ヤクシソウ
夏 -43	ヤマノイモ	秋 -43	リンドウ
夏 -44	ヨメナ	秋 -44	コウヤボウキ
夏 -45	ワレモコウ		

- 参考図書： 東海大学出版会「フィールド図鑑」
保育社「カラー自然ガイド」
- 写真提供： 田渕武夫、寺川裕子
(その他は上記「フィールド図鑑より」)

「奥の谷花ごよみ」 (1)夏の花

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
夏-1	アオツツラフジ	ツツラフジ科	在来種	多年草	7(実9-12)
		つる性の落葉低木。茎は左巻きで細毛が多い。葉は互生、卵形または浅く3裂する。雌雄異株で、7月に黄白色の小花を穂状につける。果実は液果状で黒く熟し、中に核を含む。全土に分布し、林縁にふつうに生える。和名:「神エビ」でエビはエビヅルのことという。			
夏-2	オギ	イネ科	在来種	多年草	7
		高さ2mほどに達する。全形はススキによく似ている。茎は長い地下茎から単生し直立する。若い芽は毛のある葉鞘に包まれる。葉の下面はススキほど白くはない。10月、ススキよりやや遅れて出穂し、多数の小花を密につける。小穂は黄褐色。広く北海道～九州に分布し、河原や水辺に生え、大きな群落をつくる。漢名を「荻」と書くが、オギの語源は不明。			
夏-3	セリ	セリ科	在来種	多年草	7-8
		高さ30cmほど。長い匍枝を出して盛んにふえる。葉は2回羽状に裂ける。花は7～8月に咲き、白色。花弁は5個で内側に曲がる。広く全土に分布し、川岸や溝に生える。香りがよく食用のため栽培される。和名:「茎がせり合って生えるため」との説がある。			
夏-4	センニンソウ	キンポウゲ科	在来種	多年草	7-8
		つる性で、茎はよく伸び他の植物におおいにかぶさるように生長する。若葉に白いすじがある。葉は対生し、羽状に小葉がつき、葉柄で巻きつく。8月、多数の白色の花が集散花序につく。広く日本全土に分布し、やぶ、林縁、川の土手などにごくふつうに生える。和名:「仙人掌」と書き、果実を仙人のひげにみたてたといわれる。			
夏-5	ノギラン	ユリ科	在来種	多年草	7-8
		高さ30～70cm。ロゼット状。7～8月、淡黄色の花を穂状につける。北海道～九州に分布し、乾いた草地に生える。和名:「ノギ」をもった蘭の意。			

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
夏-6	ヒレタゴボウ	アカバナ科	北アメリカ	1年草	7
		直立して高さ1mを越え、黄色い花を咲かせる。花弁には葉脈状の筋がある。河原、放棄水田、水田の畦などの水湿地に生育する。和名:「茎に鱗(ひれ)がある田牛蒡(ごぼう)」である。			
夏-7	ヘクソカズラ	アカネ科	在来種	多年草	7-8
		つる性落葉。茎は細く、左または右巻きでよく伸長し、高さ5～6mにも達する。葉は対生、毛を散生し、乾くと黒色に変わる。8～9月、鐘状の花を数個房状につける。花冠はピロード状の毛があり、内面の中心は紅紫色である。果実は丸くて黄褐色に熟す。低地の林縁、やぶや茂みにふつうに生える。和名:「茎や葉をもむと悪臭があるので「屁糞蔓」の名がついた。花がお灸のあとに似る」。			
夏-8	アキノノゲシ	キク科	在来種	1～2年草	8-11
		高さ1.5～2mに達する。頭花は茎の頂きに穂状に多数つき、日中開き、朝夕とじる。舌上花は淡黄色で、裏面は淡紫色をおびる。路傍、耕作放棄地、河岸肥沃地などに生える。和名「秋に咲くノゲシ」の意。			
夏-9	ムラサキツメクサ	マメ科	ヨーロッパ	多年草	7
		アカツメクサ。高さ30～60cm。茎は株立ちしてまばらに分枝し、全体に毛がある。葉は互生し、3小葉は長楕円形。5～6月、紅紫色の蝶形花を集める。明治初期に牧草として輸入されたが、現在各地の空地、荒地に帰化している。和名:「紫詰草」または「赤詰草」は花の色に基づく。英名: Red clover.			
夏-10	メマツヨイグサ	アカバナ科	北アメリカ	2年草	7-8
		高さ1～1.5mに達する。茎葉は互生、先端がとがり、中央脈が少し赤みをおびる。葉腋に1個ずつ淡黄色の花をつけ、夕方開いて翌朝しぼむ。北米原産の帰化植物で渡来は明治末期といわれる。空地、荒地、河原などにふつうに生える。			

「奥の谷花ごよみ」 (1)夏の花

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
夏-11	ヤナギハナガサ	クマツヅラ科	南アメリカ	多年草	7
photo by Terakawa		長い茎の先に、紅紫色の小さな花が多数集まって咲く。花冠は先端が5裂する。長さ1cmほど。三尺バーベナとも呼ばれる。同じ仲間に「バーベナ」がある。栽培植物として導入されたものが野生化したもの。河川敷や造成跡の草地によくみられる。			
夏-12	アキノタムラソウ	シソ科	在来種	多年草	8-11
photo by Tabuti		高さ60cmほど。茎葉にせん毛が密に生える。葉は羽状複葉。7～10月、細長い穂を出し、淡紫色の唇形花をつける。本州以西に分布する。			
夏-13	アメリカイヌホウズキ	ナス科	北アメリカ	1年草	8-11 (実11)
photo by Tabuti		高さ30-60cm。イヌホオズキに比べて葉が細くて薄い。茎は細くよく分枝して横に広がる。花は普通は淡紫色で白色のものもある。イヌホオズキは荒地に生えるが、これはやや湿り気のあるところに生える。どちらも黒く丸い実をつけるが、イヌホオズキは光沢がなく、本種は光沢がある。			
夏-14	イタドリ	タデ科	在来種	多年草	8-10
		高さ1mほど。茎は円柱形で直立、分枝する。葉は互生。8～9月、葉腋に多数の小白花を集める。雌雄異株。果実は羽状のがくに包まれる。地下茎で繁殖する。北海道西南部以南の低地帯から山地帯に分布し、生育範囲は広く、いたるところに生える。和名：「疼取り」と書き、痛み取りの効力があることによる。若芽は食用。			
夏-15	イヌガラシ	アブラナ科	在来種	多年草	8-11
		高さ10～30cm。ロゼット葉は紫色をおびる。茎は根ぎわより分枝して広がる。全体無毛。葉は互生し、不規則に分裂する。黄色十字花を総状につける。果実は細長く、やや曲がっている。種子は黄色。和名：「犬芥子」と書き、食用にならないカラシ菜の意。最近、都会地には花卉の伸長しないミチバタガラシが多く見られる。			

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
夏-16	オオアレチノギク	キク科	南アメリカ	1～2年草	8-12
photo by Tabuti		高さ1.5mほど。全体にピロッド状の短毛が生え、白緑色にみえる。茎はやや太く、花序の枝分かれも少ない。関東地方以西に分布する。和名：大形の荒地に生える菊の意。			
夏-17	オトギリソウ	オトギリソウ科	在来種	多年草	8-9
		高さ50cmほど。茎は直立、葉は十字対生。光にすかすと黒色の腺点がみえる。7～8月、黄色の5弁花をつける。一日花。全国に分布し、草原に点在生育する。和名：「弟切草」で、薬効を他人にもらして殺された伝説による。			
夏-18	オニドコロ	ヤマノイモ科	在来種	多年草	8-9
		つる性。茎は右巻きでよく伸長し、5mほどに達する。葉は互生、心形で質はうすが日ににかざしても細脈は不明。雌雄異株。雄花穂は直立、雌花穂は下垂。さく果は3枚の羽根形で上向きにつき、片翼のある種子を入れる。種子はキリもミ状に落下する。地下茎は横にはい、太くてかたく、ひげ根がある。味は苦い。和名：インドネシア語の「tongkol」に由来するといわれる。			
夏-19	オミナエシ	オミナエシ科	在来種	多年草	8
photo by Tabuti		高さ1mほど。茎は細くて直立し、羽状にさけた葉が対生する。根生葉は楕円形で柄が長い。黄色の花弁は5個。乾いた草原に生える。和名：「女郎花」。秋の七草の一つ。			
夏-20	カナムグラ	クワ科	在来種	1年草	8-9
photo by Tabuti		つる性。茎は短い逆向きのトゲがあり、他物におおいにぶさるように生長する。葉は互生、掌状に5～7裂する。雌雄異株。雄花穂は円すい状で多数の小花がつき、雌花穂は短く、紫褐色の包に包まれている。路傍、荒地、土手などにふつうに生え、特に河川敷の肥沃地に大群落をつくる。和名：「カナ」は鉄で強い茎を形容し、「ムグラ」は茂る雑草をいう。			

「奥の谷花ごよみ」 (1)夏の花

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
夏-21	カラスウリ	ウリ科	在来種	多年草	8(実11,12)
photo by Tabuti		つる性。全草に白い細毛がある。茎は伸長して3～4mに達する。葉に対して巻きひげがつく。雌雄異株。雄花は数個つき、雌花は単生する。花は夕方咲き、朝しぼむ。花冠は5裂し、へりは糸状に細裂する。果実は赤く熟す。秋、茎の先端が地下にもぐり塊根を形成する。和名：「烏の瓜」の意であるが不明。			
夏-22	ガンクビソウ	キク科	在来種	多年草	8
		高さ50cmほど。茎は上部でまばらに枝を分ける。葉は卵形、下部のものは枯れる。枝の先端に黄色の頭花を1個下向きにつけ、もとに包状はがつく。本州以西に分布し、疎林内や林縁に生える。和名：頭花がキセルの雁首を思わせるため。			
夏-23	キツネノマゴ	キツネノマゴ科	在来種	1年草	8-11
		高さ10～30cm。茎は4角形。花は包葉に包まれ、淡紅色の唇片花で花冠は紅色の斑点がある。雌ずいは花粉を受けると閉じる。熟すと種子ははじけて飛ぶ。			
夏-24	キンミズヒキ	バラ科	在来種	多年草	8-9
		高さ100cmほど。茎は数本直立する。はは互生し羽状にさけ、小葉に大小があり、腺点がある。基部には托葉がつく。茎の先端に黄色の小花を穂状につける。かく筒にかぎ状のトゲがあり、果実になってこのトゲが他物について散布を助ける。日のあたる路傍や草地に生える。和名：「金水引」の意で黄色の花穂を金色の水引きにたとえた。			
夏-25	コナギ	ミズアオイ科	在来種	1年草	
photo by Tabuti		高さ20cmほど。全草に毛がなく、濃緑色でつやがある。葉は柄が長く、心臓形、基部がさや状となる。8～10月、高温期に開花し、青紫色の花をつける。本州以南の暖地に分布し、水田の代表的な雑草。和名：小形のナギ(ミズアオイのこと)の意。			

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
夏-26	タカサブロウ	キク科	在来種	1年草	8-9
photo by Tabuti		高さ30～60cm。全草に短い剛毛がある。葉は対生し無柄。舌状花は白色で2列に並ぶ。筒状花は淡緑色。果実は黒く熟し、先端に粘る微毛がある。種子は水流で散布。茎を折ると酸化酵素の働きで黒色になる。本州以南に分布し、暖地に多い。水田、側溝、河岸などの富栄養地にふつうに生える。			
夏-27	ツククサ	ツククサ科	在来種	1年草	8-10
photo by Tabuti		高さ30～40cm。茎はよく分枝し、節から根を出す。葉は2列に互生。花は早朝咲いて午後にはしぼむ。花は半月形の葉に包まれる。果実は白色で2裂する。日本全土に分布し、道ばたに群生する。和名：露をおびる草の意。			
夏-28	ヌスビトハギ	マメ科	在来種	多年草	8
		高さ50cmほど。葉は互生、3出複葉で小葉のもとに葉枕があり睡眠運動をする。総状に淡紅色の蝶形花をつける。果実は2節となり、それぞれに1個ずつ種子を入れる。果実の表面には短いかぎ状の毛があり、動物に付着して運ばれる。アレチヌスビトハギは果実は4～6節よりなり、葉の先はとがらない。和名：「盗人萩」と書き、果実の形がぬすびとのしのび足の足跡に似ること			
夏-29	ヒナタイノコヅチ	ヒユ科	在来種	多年草	8-10
		高さ80cmほど。茎は直立し、節のふくれが目立つ。葉は対生、卵形で毛がやや多い。花は緑色。果実には3本のかぎがある。果実は動物や衣服について運ばれる。和名：「猪の子槌」と書き、高い節をもつ茎を猪の足にみたてた。			
夏-30	ヒヨドリバナ	キク科	在来種	多年草	8-11
		高さ1～2m。株立ちになる。葉は十字に対生。茎の先端に散房状の多数の頭状花をつける。花は白で少し紫みをおび、筒状花のみ。白色の冠毛があり風で飛び散る。葉形に変異が多い。和名：ヒヨドリの鳴く頃に花が咲いたため。			

「奥の谷花ごよみ」 (1)夏の花

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
夏-31	ヨモギ	キク科	在来種	多年草	8-11
photo by Tabuti		高さ60～100cm。全草に香気がある。葉は互生し、細裂、裏面に白毛を密生する。茎の上端に枝を分けて多数の頭花をつける。頭花は下向きにさき、すべて筒状花よりなる。筒状花は周辺に雌花、中心に両性花が並ぶ。和名：よく燃える草の意味という。くさもちやもぐさの原料となる。			
夏-32	ヒメムカシヨモギ	キク科	北アメリカ	2年草	8-10
photo by Tabuti		高さ1.5mほど。秋に発芽し、ロゼット葉で越冬する。全草有毛。葉は密に互生してつく。多数の頭状花を円すい状につける。帰化植物で渡来は明治初年。鉄道沿線にそって分布したので「鉄道草」の名がある。和名：「姫昔よもぎ」でムカシヨモギの仲間では花が小形なため。			
夏-33	ヒルガオ	ヒルガオ科	在来種	多年草	8
photo by Tabuti		つる性。茎は左巻きとなり長さ1.5mほどになる。葉は互生、長楕円形で基部はわずかに耳形となる。花は午前が開いて夕方にしぼむ。ろうと状の花冠は5～6cmで淡紅色。基部の包は卵形。果実はまれに実る。地下茎は白色でよく伸長する。和名：花が日中に咲くことによる。			
夏-34	ノブドウ	ブドウ科	在来種	多年草	8-9 (実11)
photo by Terakawa		つる性の落葉低木。茎は長く生長し、古い茎には茶色の皮がある。葉は互生、3～5裂し、春早く出た葉は切れ込みが深い。巻きひげは葉に対して各節ごとにつく。葉に対して花序を出し、緑色の小花を多数つける。果実は液果で白色から紫、青にかわり、虫食いとなるものが多い。果実は食べられない。			
夏-35	フユイチゴ	バラ科	在来種	多年草	8-9 (実10-2)
		つる性の常緑低木。ほふく枝を伸ばして長さ2mほどに達する。葉は互生。全面に毛があり特に裏面に軟毛を密生する。葉腋に5～10個の白色花をつける。果実は集合果で冬に赤く熟し食べられる。関東地方～九州の低地の常緑樹林内に生える。ほふく枝で繁殖し、群落となる。和名：「冬莓」			

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
夏-36	ホウキギク	キク科	北アメリカ	1年草	8-10
photo by Tabuti		高さ0.8～1.5m。茎が1本直立し、葉も茎も全く毛がなくつやがある。頭花は径8mmほどで舌状花は白色。果実にはよごれた淡いピンク色の冠毛があって、さかにとびちる。			
夏-37	オヒシバ	イネ科	在来種	1年草	9
		高さ10～40cm。茎や葉は地ぎわからそう生し、四方に広がる。茎の先端にかさ状に花穂をつける。小花にノギはない。畑地では直立するが、踏みつけのはげしいグラウンドや路上では地面に接して生育する。根はひげ状で引き抜きがたい。和名：メヒシバに対しての呼称で、より壮大なため。			
夏-38	メヒシバ	イネ科	在来種	1年草	8-10
		高さ40～80cm。茎は根ぎわで分けつし、四方に分枝して節から根をおろし、先端が斜めに立ち上がる。葉は有毛。代表的な畑地雑草である。和名：「雌日芝」と書き、日の当たる陽地に生えるシバでオヒシバに似て軟弱なことに基づく。			
夏-39	ヤハズソウ	マメ科	在来種	1年草	8
photo by Tabuti		高さ20cmほど。茎に下向きの毛がある。葉は3個の小葉よりなり、うすい膜のような托葉がある。紅紫色の蝶形花をつけ、時に閉鎖花となる路上や荒地に群生する。和名：「矢筈」とは矢の上端の意味で、ヤハズソウの葉をひっぱると、切れて矢形になるため。			
夏-40	ヤブツルアズキ	マメ科	在来種	多年草	8-9
photo by Tabuti		草原に生えるつる草。葉は質うすく、まばらに毛がある。花は黄色で舟弁がひどくねじれているのが特徴。種子は多く、熟すと黒くなる。			

「奥の谷花ごよみ」 (1)夏の花

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周 辺の開花月
夏-41	ヤブラン	ユリ科	在来種	多年草	8
		高さ50cmほどの常緑多年草。葉は根ぎわに多数そう生する。茎の上部に総状花序となって紫色の花をつける。果皮がやぶれて種子が現われ、黒色に塾す。関東地方以西に分布し、常緑樹林内にふつうに生える。葉に斑の入った品種が栽培される。和名：「薺蘭」でランの仲間に似てやぶに生えるため。			
夏-42	ジャノヒゲ	ユリ科	在来種	多年草	(実9)
		高さ10cmほどの常緑多年草。葉はそう生する。7～8月、淡紫の花を総状につける。花は下向きに咲く。種子は子房を破って青色に熟す。根は一部分がふくらむ。地下茎をのばしてふえ、群落となる。和名：「蛇のひげ」。別名「竜のひげ」ともいう。			
夏-43	ヤマノイモ	ヤマノイモ科	在来種	多年草	8
		つる性。茎は左巻き、葉は対生、節にむかごができる。茎は他物に巻きつき、長さ5mほどに達する。葉は長卵形で質はやや厚く、日にかざすと細脈がみえる。雌雄異株で雄花穂は直立し、雌花穂は下垂する。根は多肉根となり、食用となる。和名：「山芋」で、他に「自然生(ジネンジョウ)」とも呼ばれる。			
夏-44	ヨメナ	キク科	在来種	多年草	8-12
photo by Tabuti		高さ50～80cm。葉は互生し、あらい鋸歯がある。まばらな枝を出して紫色の頭状花をつける。頭状花は径2.5～3cm。茎や葉はほとんど毛がなく、舌状花にも筒状花にも冠毛がない。近畿以西に分布する。			
夏-45	ワレモコウ	バラ科	在来種	多年草	8-11
photo by Tabuti		高さ70～100cm。茎は細くて硬い。葉は互生、羽状複葉で小葉は2～6対つく。托葉は葉状。茎の先端に短い円筒状の花序をつける。花は暗い紅色。花序の先端から輪状に咲く。花に香りがある。ススキ草原に生え、時に湿原にも生える。和名：「吾木香」と書く。木香はキク科の植物。			

「奥の谷花ごよみ」 (2)秋の花

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-1	アカザ	アカザ科	在来種	1年草	9
		高さ150cmほどに達する。葉は互生、柄が長く菱形状、無毛でやわらかい。若い葉が紫紅色の粉状毛におおわれて美しい。8～10月に黄緑色の小花が多数つく。畑地、ごみ堆積地などに繁茂し、好窒素性植物として知られる。			
秋-2	アカネ	アカネ科	在来種	多年草	9
		つる性で1～1.5mの高さに達する。茎に逆向きのトゲがある。葉は心臓形で4枚輪生する。枝の先端に黄色の小花を多数つける。果実は黒く熟す。根はひげ根状で黄赤色をおびる。和名：根が赤いことからつけられた。根は茜染めの原料で有名である。利尿、解熱などの薬用にもなる。			
秋-3	アメリカセンダングサ	キク科	北アメリカ	1年草	9-11
		高さ1～1.5mに達する。茎は直立し紫色をおびる。葉は羽状に深くきれこむ。9～10月に頭状花をつけ、外側に葉状のそう包がある。果実は2個のトゲがあり、他物に付着して散布を助ける。			
秋-4	コセンダングサ	キク科	在来種	多年草	9
		高さ1～1.5m。茎は直立し無毛。葉は対生し、3～5個の小葉に分かれる。果実に3歯があり、熟して散開し、他物について散布される。世界の広布種で明治時代に帰化。			
秋-5	アレチウリ	ウリ科	北アメリカ	1年草	9
		つる性で茎は地表をはい、他の植物におおいかぶさって長さ10mにも達する。葉は互生し有毛で淡緑色をおびる。節から巻きひげを出す。雌雄異株。雄花は直立した枝に数個つき、径約1cm。雌花は葉腋に数個かたまってつき、雄花より早く咲く。果実は長卵形で表面にトゲが密につく。戦後に帰化。和名：「荒地瓜」			

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-6	イヌタデ	タデ科	在来種	1年草	9-11
		高さ20～40cm。茎はよく分枝して広がる。葉は互生し、節にさやがあり、へりに長い毛がある。花穂に紅紫色の小花を密につける。畑地から路傍、樹園地にまで生育し、特に富栄養地では群生する。和名：「犬蓼」と書き、辛味がなく役に立たないタデの意。別名を「あかのまま」といい、赤飯の意で花穂の様子をたとえた。			
秋-7	オオイヌタデ	タデ科	在来種	1年草	9-10
		高さ1mほど。茎は上方で多数枝を分ける。節はふくれる。葉は互生で先端がとがり、暗色の斑紋がある。鞘に毛がない。花穂は細花が多数集まって先端が下垂する。和名：イヌタデに似て大形なため。			
秋-8	コニシキソウ	トウダイグサ科	北アメリカ	1年草	9
		茎は長さ10～20cmでほふくする。葉は対生、暗紫色の斑紋が目立つ。7～11月に開花し葉腋に杯上花序をつける。さく果は有毛、3稜形。和名：「小錦草」で、茎が赤く葉が緑で美しいため。			
秋-9	オオニシキソウ	トウダイグサ科	北アメリカ	1年草	9-10
		茎は立ち、高さ約25cm。葉の斑紋はなく、果実も無毛。			
秋-10	オオオナモミ	キク科	メキシコ	1年草	9(実10-11)
		高さ0.5～2mに達する。オナモミに似るが茎や葉柄が紫褐色に染まるものが多い。果包は互いに接してつき、長さ約2cm。果包の表面に毛が少なく、くちばしは開いている。熟して褐色になる。1929年に帰化の記録がある。関東地方以西に分布。			

「奥の谷花ごよみ」 (2)秋の花

Nº	種名	科名	原産	1~2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-11	カラムシ	イラクサ科	在来種	多年草	9
		高さ1~2m。茎は直立して群生する。葉は互生、葉面はざらつき、裏面に白色綿毛を密生する。花穂は下方に雄花穂をつけ、雄花は黄白色。雌花穂は上方につき淡緑色で小球状に集まる。果実は集まって小球状となる。和名：「莖蒸」の意で、カラ(莖)を蒸して皮をはぎとり繊維をとることから。別名マオは「真正の麻」の意。			
秋-12	キンエノコロ	イネ科	在来種	1年草	9-10
		高さ40~60cm。8~10月に花穂。花序はやや細くて直立。剛毛は黄色。和名：えのころは「狗の子草」で、穂を子犬の尾にみたてた。金えのころは花穂の色による。			
秋-13	クズ	マメ科	在来種	多年草	9
		つる性であるが、茎にほふく性茎とつる性茎があり、ほふく性茎の基部は木質となり、地表近くで越冬する。つる性の茎は左巻き、よく分枝して伸び1年で枯れる。葉は互生し、3小葉で、基部にある葉枕で日射の受ける量を調節する。葉腋に花穂を出し、濃い紫色の蝶形花をつける。根は肥大し、でんぷんを含む。北米に帰化している。和名：奈良県国栖の人がくず粉を売り歩いたこと			
秋-14	ゲンノショウコ	フウロソウ科	在来種	多年草	9
		高さ60cmほど。根ざわり分枝して株状になる。茎の葉は対生し、基部に托葉がある。葉は5裂し、暗紅色の斑点が目立つ。花は朝開いて午後にはしぼむ。花は白色と紅色のものがある。紅色は近畿以西に多い。和名：「現の証拠」と書き、薬用として飲むと必ず効果が現われるという意。イシャイラスなど薬効にまつわる言葉が多い。			
秋-15	コオニタビラコ	キク科	在来種	2年草	9
		高さ10cmほど。ロゼット葉で越冬する。葉は羽状にきれこむ。4~5月、茎は数本伸長して広がり、頭花を少数つける。頭花は舌状花のみからなり、日を受けて開く。果実に冠毛はない。和名：「小鬼田平子」と書き、田平子は水田で葉を広げている様子からきた。春の七草のホトケノザは本種である。			

Nº	種名	科名	原産	1~2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-16	ススキ	イネ科	在来種	多年草	9-10
		高さ1~1.5m。大きな株になり多数の茎を出す。葉はへりにケイ酸を含む鋸歯がある。8~10月、茎の先端に大きな花穂を出し、はじめ直立するが、のち開出する。小花は長いノギがあり、基部に白毛がある。重要な牧草のほか、屋根をふく材料とする。和名：すすく立つ木(草)の意といわれる。秋の七草の一つ。			
秋-17	スズメウリ	ウリ科	在来種	1年草	(実9,11)
		つる性で全草やわらかい。茎は細く、伸長して2~3mになる。葉は互生、葉に対して巻きひげがでる。8~9月開花。花は小形で白色、5裂する。果実は細い柄で下垂し、球形で白色に熟す。茎は秋になると槌にもぐり、地下茎となって越冬する。和名：「雀瓜」と書き、小形の果実をスズメで表現したもの。			
秋-18	セイタカアワダチソウ	キク科	北アメリカ	多年草	9-12
		高さ2m、ときに3mにも達する。根生葉で越冬する。葉は互生し、表面ざらつく。花は10月より咲きはじめ、黄色の頭状花を密につけ、穂の先端から咲く。種子に冠毛があり風で飛び散る。根茎は地中を横走する。花粉病源の植物といわれる。和名：「背高泡立草」の意で花穂が泡が立つように咲くようすから。			
秋-19	ベニバナボロギク	キク科	アフリカ	1年草	
		高さ1mほど。全体やわらかい。葉は互生、不規則に羽裂する。7~9月開花。頭花は下向きに咲く。1950年頃に帰化。関東地方以西に分布し、伐採跡地に群生する。			
秋-20	チカラシバ	イネ科	在来種	多年草	9-11
		高さ60cmほど。密にそう生して大きな株になる。葉は根生でかたい。円柱状の花序に多数の小穂をつける。基部に紫色の剛毛があつてざらつき、衣服などにつきささり果実ごと運ばれる。和名：「力芝」は根が上部で力が強い人でも引き抜けないのでこの名がある。			

「奥の谷花ごよみ」 (2)秋の花

Nº	種名	科名	原産	1~2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-21	チヂミザサ	イネ科	在来種	1年草	9-11
		高さ20~30cm。茎は地表をはい、まばらに分枝する。葉は互生、葉面のへりは波うつ。花軸に毛がなく、葉鞘もへりを除き無毛。花にノギがあり、結実の時に粘液を出して、衣服などについて種子を散布する。林内陰地に生育する。和名：「縮み笹」と書き、葉のへりがちぢんで笹に似るため。			
秋-22	ツリガネニンジン	キキョウ科	在来種	多年草	9-11
		高さ1mほどの多年草。根生葉は円心形で茎葉と異なる。葉は輪生。円すい花序を出し、青紫色の鐘形花をまばらにつける。ススキ草原に生える。和名：「釣鐘人參」で、人參は根が朝鮮人參に似ることによる。			
秋-23	ツルボ	ユリ科	在来種	多年草	9
		高さ30cmほど。葉は2枚で紫色をおび、春と秋に出る。30cmほどの花茎を出して総状花序に淡紫色の花をつけ美しい。さく果は上向きとなり、熟して黒色の種子を散らす。地下に黒褐色のりん茎がある。日の当たるシバ地や土手などに生え、時に群生する。			
秋-24	ツルリンドウ	リンドウ科	在来種	多年草	9-10 (実11-12)
		つる性で茎は地表をはい、先端で他物に右巻きに巻きつく。葉ははじめ十字に対生し、のち一面に並ぶ。下面は紫色をおびる。葉腋にリンドウに似た淡紫色の花を1個ずつつける。果実は液果で、柄が伸び、熟して紅紫色になり美しい。種子に膜質の翼がある。二次林内に生える。和名：つる性のリンドウの意。			
秋-25	ノアズキ	マメ科	在来種	多年草	9
		つる草。茎や葉柄に下向きの細かい毛がある。小葉は3個。両面に細かい毛があり、裏に赤い腺点がめだつ。がくにも細かい毛と腺点がある。果実にはビロードのような毛が密生する。			

Nº	種名	科名	原産	1~2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-26	ヒガンバナ	ヒガンバナ科	在来種	多年草	9
		高さ70cmほど。葉は10月頃より地表に現われ、細長いむち状で濃緑色をおび、越冬して翌年4月頃枯死する。花の基部に蜜を分泌する。不稔性で果実ができない。鱗茎は球形。有毒。中国の原産で古く帰化し、水田や畑地の土手、林縁などに群生する。和名：秋の彼岸に開花するため。別名「曼珠沙華(まんじゅしゃげ)」は赤い花を表す梵語に基づくという。			
秋-27	ブタクサ	キク科	北アメリカ	1年草	9
		高さ1.0~1.5m。全草に軟毛がある。葉は互生、羽状に細裂する。花序に雌雄の別があり、雄花序は茎の先端に穂状がつき、黄色の花粉をまきちらす。雌花序は雄花序の基部にある包葉の中につく。帰化は明治初期。和名：英名の「Hogweed」の和訳に基づく。			
秋-28	ホシアサガオ	ヒルガオ科	南アメリカ	1年草	9
		つる性の一年草。7~10月に開花。ピンク色の2cm内外の漏斗形で、中心部が濃い紅紫色の花。長い柄を葉の上に出して咲く。葉は3尖性。毎年、多数の花が咲き、多数の種子が稔る路傍に野生化。第2次世界大戦後に帰化。			
秋-29	ヒメクグ	カヤツリグサ科	在来種	多年草	9
		高さ約20cm。基部に少数の短い葉をつける。茎の頂に小穂が密にかたまり、1個の球形緑色(軽~10mm)の花序をつくる。6月に出穂する。花穂は球状。地下茎でふえる。湿地に生える。			
秋-30	コゴメカヤツリ	カヤツリグサ科	在来種	1年草	10
		高さ20~40cm。茎は3稜形。小穂は20個ほどの小花よりなり黄緑色をおびる。小花のりん片は丸くとがらない。本州以南に広く分布し、畑地、休耕水田など湿った土の上に生える。和名：「小米ガヤツリ」で小花が米に似るため。			

「奥の谷花ごよみ」 (2)秋の花

№	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-31	ボントクタデ	タデ科	在来種	1年草	9-10
photo by Tabuti		高さ70～100cm。上向きの毛がある。葉は先が鋭く、両面に短毛があり、上面には八の字型の黒い斑がめだつ。花はまばらな長い穂をつくり、穂先はたれる。水辺の湿地に多く、あぜ道や河原に生える。がくは緑色で上部は紅色。辛味がない。水辺に生える。和名：ボントクは愚鈍者の意。			
秋-32	ママコノシリヌグイ	タデ科	在来種	1年草	9-10
		つる性。茎は4稜で、へりに鋭い逆向きのトゲがあり、他の植物によりかかり、長さ1mほどに達する。葉は三角形で基部が心臟形となる。分枝した枝先に小花を球状に密につける。がくは5裂し淡紅色。果実は球形で黒色。和名：「継子の尻拭い」と書き、トゲのある茎で継子の尻をふく意。			
秋-33	ミズヒキ	タデ科	在来種	多年草	9
		高さ80cmほど。茎は根元より数本たち、褐色をおびる。葉は互生、広い卵形で八の字状の斑紋がある。むち状の長い花穂を出して小花をつける。花は上面が紅色、下面は白色、花柱の先端はかぎ状となり、他物にひっかかって果実が運ばれる。根茎はかたく塊状となる。和名：花穂が上から赤、下から白くみえるようすを水引きに見立てた。			
秋-34	メドハギ	マメ科	在来種	多年草	9
photo by Tabuti		高さ60～80cm。茎は木質でかたい。葉は3小葉。蝶形花をつけ、花弁は白色で紫色の線がある。豆果はレンズ状。閉鎖花をつける。河原の砂質地に生える。和名：「目処萩、または筮(めどき)萩」の意といわれる。			
秋-35	ヤブマメ	マメ科	在来種	多年草	9
photo by Terakawa		つる性。茎は左巻きに伸長し、逆向きの毛がある。葉は互生し幅広い3小葉がある。葉腋に短い花序を出して淡黄色の蝶形花をつける。豆果は長さ2～3cm。閉鎖花をつけ、地下で円い果実となって中に1種子がある。和名：藪に生える豆の意。			

№	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-36	ヤマジノホトギス	ユリ科	在来種	多年草	9
photo by Tabuti		夏緑の多年草。高さ30～100cm。有毛で毛は斜め下向きに生える。葉は互生し、狭卵形～楕円形で基部は茎をだき、両面に毛がある。花は1～2個ずつつき、淡紅紫色で、濃い紫赤色の斑点がある。和名：花卉の斑点をホトギスの胸の斑点になぞらえた。「山路」は生育地にちなむ。			
秋-37	ヒヨドリジョウゴ	ナス科	在来種	多年草	9(実10-2)
		半つる性で、茎は木質化した古い枝より出てやわらかい毛を密につける。葉は2～3裂する。花冠は白色で5深裂し、反り返る。果実は赤く熟す。和名：「鶉上戸」と書き、ヒヨドリが好んで食べることによる。有毒。			
秋-38	イナカギク	キク科	在来種	多年草	10
photo by Tabuti		頭花は径cm内外で、舌状花は白色。全体にあら毛が多く、葉の基部は茎を抱いている。西日本に特に多い。			
秋-39	イヌビエ	イネ科	在来種	1年草	10
		高さ80～120cm。全草無毛。茎は根ぎわで分けつし、斜めに立つ。茎の先端に花序を出し、先端はかたむく。小穂に長いノギがある。			
秋-40	センブリ	リンドウ科	在来種	1～2年草	10-11
photo by Tabuti		高さ5～20cm。茎は紫色をおびる。葉は十字に対生する。花冠は5深裂。日の当たる芝地や裸地に生える。和名：「千振」で苦味が強く、健胃剤になる。			

「奥の谷花ごよみ」 (2)秋の花

Nº	種名	科名	原産	1～2年草 or多年草	奥の谷周辺 での開花月
秋-41	ミソソバ	タデ科	在来種	1年草	10-11
		高さ40～50cm。茎は多数枝を分けて密生する。葉は互生、広いほこ形で暗色の斑紋がある。淡紅色ときに白色の小花を球状につける。種子は3稜がある。休耕田、溝、河岸などに群生し、富栄養地の指標とされる。和名：溝に生える蕎麦に似た植物の意。葉の形からウシノヒタイの別名もある。			
秋-42	ヤクシソウ	キク科	在来種	1～2年草	10-11
photo by Tabuti		高さ30～60cm。茎は多数枝を分ける。根生葉はさじ形で紫色の筋のあるものが多い。茎葉は柄がなく、茎を抱く。散房状に頭状花をつける。頭花は舌状花のみで黄色、結実期には下を向く。山地の陽地に生え、特に伐採地、林道の法面、崩壊地などに生え、しばしばタケニグサとともに群落をつくる。和名：「薬師草」と書くと思われるが語源は不明。			
秋-43	リンドウ	リンドウ科	在来種	多年草	10
photo by Tabuti		高さ50cmほど。葉は十字に対生。3脈が目立つ。茎は赤紫になることが多く、葉は10数対もでき、ふちは細かい突起があってざらつく。花は4～5cmで日を受けて咲き、鐘形で5裂する。根茎は薬用。日の当たる草原に生える。和名：「龍胆」の音読み。			
秋-44	コウヤボウキ	キク科	在来種	多年草	
photo by Tabuti		高さ70～80cm。枝は細く、よく分枝する。葉は互生し、有毛で1年枝では卵形、2年枝では細長い。3脈が目立つ。9～11月、白色の頭花をつける。二次林内に多い。和名：高野山でほうきをつくることでこの名がある。			